

令和元年度第1回まちづくり懇談会  
「NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会」

1. 日 時：令和元年8月22日（木） 午後1時30分～午後2時30分
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 次 第
4. テーマ：市民や地域の人たちに愛される文化のまちづくり

【議題】

- ①演劇文化を守るための環境について
- ②演劇文化の大切さとその取り組みについて

---

●団体

ふなばし演劇鑑賞会の会長をしております畑と申します。役員と会員14名で参加しておりますので、よろしくお願いいたします。

○市長

よろしくお願いいたします。

今日はお越しいただきましてありがとうございます。そして、演劇鑑賞会の皆さんには、本当に長い期間、船橋の文化のまちづくりを進める一つの大きな力として活動を続けていただいていることに、改めて感謝申し上げたいと思います。

私も、以前、当時の会長さんと、演劇鑑賞会のホールの確保の仕方とか、総会時の会場の話などの演劇鑑賞会の運営についてだけではなくて、船橋のまちの文化というか幅広い文化のお話をさせていただきました。

今、船橋市も人口が63万8,000人。全国の自治体の約8割で人口減少が始まる中で、船橋の場合はまだ緩やかですが、人口が伸びている状況になっています。ただ、人口が多いからいいかという、そんなことはなくて、やはり文化の面とか、様々な部分で市民の皆さんの活動がしっかりと行われることが良いまちをつくる大きな力になると思っています。

ちょっと音楽の話になってしまうのですが、船橋吹奏楽団出身でチェコでずっと指揮をしている武藤英明さんという方と話をしたときに非常になるほどと思ったことがありました。それは「音楽がないと生きていけないなんていうことを言う人がいるけど、そんなことないよ。でも、文化芸術って、ビタミンみたいなもので、無くても過ごせるけど、無いままずっと過ごしていくと体が病んじゃう。だから、まさしくまちの健康度というか、健全なまちをつくっていくときには、やっぱり文化の面とかっていうものはしっかりとみんなの中にないと、弱ってしまうんじゃないか」というようなお話なのですが、私もまさしくそうだなと感じています。

今日は、皆さんのいろいろな忌憚のないご意見をお伺いしながら、また、充実した時間としたいと思いますので、よろしくお願ひします。

#### ●団体

ありがとうございます。

テーマは、市民や地域の人たちに愛される文化のまちづくりということで、今日はお話しできればと思っています。テーマの選出理由として、私たち、船橋で芝居を例会として観続けて31年になります。これも船橋市民文化ホールがあることによって、この長い年月続けることができました。私たちの会は会員制ですが、これには大きな意義がありまして、後ほどご説明させていただければと思います。

あと、今後も親しみや愛着をもって地域とつながりをもって支え合っているまちづくりであって欲しいと思っています。

議題として具体的に、演劇文化を守るための環境についてと演劇文化の大切さとその取り組みについて、お話しできればよいと思っています。

#### ●団体

ふなばし演劇鑑賞会ができて31年ですが、私は設立前からいろいろ活動してきたので、35、6年かかわってきました。いろいろな団体と一緒に映画会や演劇を実行委員会形式で行ってきたときに、1ステージ行うのにも、人集めに苦労したので、この演劇鑑賞会を始めるとき、毎月お金を払って観続ける会

員がそんないるのかと思っていたら、始めた年に900人近く会員が入って、驚いたことに2年目に倍ぐらいになって、3年目は3倍、というふうに広がっていった、この船橋にはそういう土壌があり、求められていたと非常に感激しました。

31年続いてきたこともびっくりなんですけど、地域の人が頑張ってくれて支えてきたという面と、船橋市と市民文化ホールさんの協力、そういうことがベースにあったから、続けてこられたとされていて、非常に感謝しています。また、とても理解のある方に市長になっていただいて非常に喜んでます。

先ほど文化芸術はビタミンというお話がありましたけど、総合計画の中に船橋の特性ということで、音楽とスポーツがあるんですけど、できれば、演劇、鑑賞芸術も入れていただけたらと思います。私が勤めているところは、ふなばし子ども劇場が全国有数の規模でした。ふなばし演劇鑑賞会はこの31年間会員数が3,000人前後で、今でも全国で6番目なんですよね。これは素晴らしいことで船橋市にとっても全国に自慢していいことのひとつだと思います。今後、ぜひ演劇でも非常に理解があって活発に活動している団体があると、よかったらのでいていただければと思いますが、これは鑑賞会のためというよりも、地域のためだと思っていますので、ぜひ今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございます。

#### ○市長

総合計画のほうはまだ全くの素案で、言葉がまだ精査できていないので、その辺はちょっと十分気をつけて策定していきます。

音楽を特出ししているのは、子どもたちの音楽が今、全国の中でも非常に有数で、自分が子どもの頃に小中学校で経験した人たちが先生になって、各学校に戻ってきている人たちが40人以上いるんですよ。その先生たちがまた自分の子どものころの感動を子どもたちに教えたいということでやっていて、特に際立っているんで、幅広くその辺は広めていきたいと思っています。

## ●団体

今の演劇文化を守るための環境について4点ほどお話しさせていただきます。市長がよく市民力と言われますが、まさに私たち鑑賞会は、市民の力で営利を目的としないで、会員の会費の持ち寄りでこれだけ続けてきました。先人たちが、立ち上げた会がこんなにも存続できたことは誇りに思っています。

設立から今日まで、私はその間27年ぐらい関わっていますが、文化芸術が果たす役割は非常に大きいと感じています。先ほど市長も、ビタミンとおっしゃっていましたが、目には見えないけれども、人生を豊かにし、生活の支えになっているものであるというふうに確信しております。

私たちがこうして地域で芝居を観ていることが日本の演劇文化を支えることにも繋がると自負しています。生のお芝居は一期一会、二度と同じ作品には会えません、その幸せをいろいろな人に味わってもらいたいと思っています。しかし、今、全国の芝居を観る人口は急激に減っている状況です。ですから、私たちは、この先も未来に向けて鑑賞会を繋げていきたいと思っていますが、ひとつの団体で活動していくには限界があるということを最近感じております。そのことが1点目です。

2つ目は、市民文化ホールについてです。ホールを文化の拠点とし、私たちはお芝居を観続けることができました。時々改修工事で市川や、八千代に出かけたこともあります。それから、お隣の千葉で芝居を観たこともありますが、船橋市民文化ホールは、駅からもちょうどほどよい距離ですし、多少、高低差がなくて見にくいという声もありますが、床はスロープになっていて、椅子も広く、他の会場に行くと、船橋市民文化ホールはよいホールだと感じています。

それから、3番目ですが、私どもは、手から手へのお知らせをしています。それで、少しでも多くの方に知ってもらいたいと思ひまして、公民館などにポスターとか、チラシを置いてもらっていますが、その反響がほとんどないんです。そういったことが非常に寂しいと思っています。

5月に川崎の新百合ヶ丘で、しんゆり芸術祭という催し物がありまして、私たちは上演日にお芝居を観に行ったのですが、入り口で渡された冊子の中を見ると、それが約3週間どの日でも好きなようにお芝居、演奏会、狂言と催され

ているうちの一つでした。子供から大人まで誰でもが、あらゆる文化芸術をいろいろな会場で観ることができるということで衝撃を受けました。

船橋でも文化芸術がより市民に身近になってほしいと思っています。

最後に、鑑賞会は、ホールに足を運べる人でしたら、子どもからお年寄りまで誰でも参加できます。それから、人が集って、自分たちで運営するという楽しみもあります。そういった日常の中で誰もが手にできる、こうした活動が幅広く行われてほしいと思っています。それには、お金ではなく、ぜひ市の応援というか、支援をしていただければありがたいと思っています。

#### ○市長

今、いろいろと楽しむ場所が増えたので、楽しみ方が非常に個別になっていて、決まった日というよりは、自分が思い立った日に何かみつけて行く傾向がかなりあると思います。

文化ホールについては、西武の跡地の話が提案されていますが、みんな音楽ホールが欲しいというんですけど、話を聞くと、言っている規模がばらばらなんです。自分たちがやりたい音楽によって800ぐらいで十分だという人もいれば、2,000あったほうがいいという人もいて非常に難しいです。

また、見ている人が減っている、楽しむ人が減っちゃっている、チラシをやっても反応がないという話について、ちょっと辛口になってしまうのですが、待ちの体制になっていないでしょうか。船橋には若い人達を中心にいろいろな団体があります。秋にミュージックストリートをやっていますが、音楽をやっている人だけでなく、例えば商店街の跡取りとか、会社員とか、農業をやっている人達などいろんな人が集まって、自分たちで自主運営しています。ボランティアも小学生から70歳位の人まで参加しているんです。1日一緒にいると、ものすごく仲よくなったりするので、皆さんも演劇から少し離れてみて、そういうイベントなどにボランティアで参加して、一緒に活動しながら、「私たち、こんなことをやっているんだけど、来ない？」とかそういうやりとりをするほうが、これから30代、40代の人たちをキャッチしてやっていく一番の近道だと思います。

実際に、イベントなどに農家の若い人がかかわることで、全く違うアイデアをもらって一緒に何かやり始めたりしています。だから、演劇にとらわれちゃうと、いつまでたっても演劇の枠の中での広がりしかないので、新しい人たちを呼び込む。そのためには興味のないところにこっちからまずちょっと行ってみたいなのが必要なんじゃないかなと思います。

それから、さっきお話されていた市の応援というのはどんなイメージですか。

#### ●団体

そうですね。まずは、市の職員が地元で元気に活動している会の催し物に参加してみると良いですね。

あとは、市役所の各課等でサークルを作って演劇鑑賞会に入会して、芝居を観ていただくのもよいかと思います。

#### ○市長

今、市に互助組織がなくなってしまったので、組織としてやるというのがだんだん難しくなっているんですね。例えば演劇をやるときに、教えてもらって、記者クラブへつなぐとか報道媒体へのアプローチなどのお手伝いはできるかもしれないので、実際に実現するかどうは別にして、そういう情報をどんどんもらえるといいかなと思います。

#### ●団体

九州の市民劇場では、高校で演劇部の顧問の先生が生徒と会員になって芝居を観ていたそうです。そこから役者も生まれています。船橋でもこれだけ長い年月やっているのだから、子どもたちが観ていたら、将来ふなばしから役者が生まれるかもしれませんね。

#### ○市長

最近、船橋の中学生たちの演劇はまた盛んになってきましたね。

●団体

そうですね。昔から、鑑賞会の会員に学校の先生はたくさんいらっしゃるんです。それで、全国に出向いて、指導している先生もいるのですけれども、なかなか生徒たちが観るといことが、難しく、部活などをやっている、忙しくて観にこれないという現実があるんですよね。でも、先生方がそんなふうに動いてくださればうれしいのですが。

○市長

教育委員会にこんな声がありますよということは話してみます。

●団体

私たちも高校の演劇部の顧問の先生宛てに例会のお知らせをしたこともあります。

○市長

今、学校はとても忙しくて、ゆとりがないんですよね。PR活動でお手伝いができることがあれば、広報の担当とも話をするのと、あとは色々な人たちとの交流をもっとやってもらえればいいなと思います。

●団体

本町通りのところで「きらきら夢ひろば」(※) っていうイベントを、年に2回やっているんですが色々な団体の代表が出てきてくださる会議が毎月あって、その中でこの次はどういうことをしようか、みんなが来るには何をしようか、ある時は犬を連れてこようとかなどいろんな案を試しています。

当日は障害のある子供たちのバンドが出たり、船橋小学校の合唱団が出たり、飯山満の高校生が出てきたり、いろいろな方が参加しています。私はフラダンスとウクレレでもう10年ぐらい参加しているんですけど、当時は控室も何もなくて、フラダンスの衣装を着がえるのも、演劇鑑賞会の事務所を借りたり、椅子が足りなかったたら、演劇鑑賞会から、貸りながらつくってきた会なんですけど、最近すごくうれしく思っているのは、中央公民館の方たちが会議に出

てきてくださっているんですね。それで、控室なども無料で押さえてくださって、使わせていただくようになりました。あと、図書館の方が古本をその日に合わせて販売するなど、住民とお店と行政とが関わってまちおこしが出来てきたと感じていて、これはまちおこしの理想の形ではないかなと思いました。ホールや公民館を中心にみんなでまちおこしをしようという雰囲気になってくると、船橋の文化度がぐっと上がるような気がします。

(※) 「きらきら夢ひろば」

船橋市本町通り商店街とNPOとの協働で、毎年春と秋の2回開催しているまちづくり活動

#### ○市長

きらきら夢ひろばは、商店会長も、いろいろな人たちが参加してくれるから広がりが出てくるんですごくいいんですよって言っていました。

職員のことをほめていただきましたが、そういう意識を持った職員が一人いると波及して、その周りがだんだん動き始めるというのもあるし、そういった声をいただいたと言うと、すごくモチベーションも上がると思いますので、伝えさせてもらいます。

#### ●団体

演劇文化の大切さとその取り組みというところで話をしたいと思います。

多くの人たちが文化に触れるという機会がある、そういうまちであって欲しいと常に願っています。私は、障害者の活動に参加しておりまして、やはり、障害のある方たちは文化に触れるという機会がなかなか少ないのが現状です。鑑賞会でもそういう方たちにお声をかけると、車椅子の方は来られるんですけども、視覚障害や聴覚障害のある方にそういう場を提供するのには、それなりの装置、準備が必要になってくるわけですね。ですから、誰もが鑑賞できるような手だてを市が考えていただけたらありがたいと思っています。

次に、高齢者の方、年金生活者の方が参加する場合には、経済的にもかなり厳しいので、観たいものがあったとしても、東京まで行ってということにはできないわけです。だけど、地元船橋にあるからこそ、気軽に参加ができると思うので、



地元施設があるということ、鑑賞できる場があるということはとても大事な  
ことだと思っています。そのためには、文化を鑑賞する機会をもっといろいろ  
と増やしていただきたいし、あらゆる人たちが参加できるような機能も備えて  
ほしいです。

それから、市や市民の活動が市民に届きやすい情報発信といいますか、そう  
いうことも丁寧にしていただきたいと思います。知ることで初めて市民が文化  
への関心を高めて、市民が自ら文化活動を始めるということに繋がっていくの  
ではないかなと感じています。

また、今の船橋では、子どもたちが学校の中で音楽やお芝居などの生の芸術  
に触れる機会があるのか私にはちょっとわかりませんが、子どもの時から文化  
に触れて感動や心豊かに楽しむ機会を得て、たくさん経験することが人間と  
しての成長のためにとっても大事だと思っています。船橋市の文化振興方針を  
拝見しましたら、子どもが文化に触れる機会を多く持つようにするといった取  
組みが書かれていましたので、とても期待できると感じております。

音楽活動に対しては情報の提供などもあり、私たちも耳にする機会が多いで  
すが、演劇については情報が十分広がっていないと感じます。中学生や高校生  
が熱心に演劇に取り組んでいる様子を、市民全体で応援するような、そういう  
体制をぜひつくっていただきたいと思います。

鑑賞会では、演劇という文化に市民の方たちが幅広く触れることができる環  
境をつくることで、文化の裾野を広げて地域社会づくりに貢献し、活動してい  
る会ですので、これからもより多くの方が鑑賞会に参加できる仕組みという  
ところも十分考えていきたいし、市のご理解もいただけたらありがたいと思っ  
ています。

#### ○市長

今、話を伺っていて、私どもも常々反省しているところですが、市の広報と  
か、ホームページに載せるとお知らせしたつもりになっちゃうんですね。た  
だ、そういった情報は1回載せて伝わるかというところ、そうではないケースが多  
くて、さっきおっしゃっていたように、中学生たちの演劇のことも含めて、繰  
り返し取り上げていく必要があるのかなと思います。

また、子どもたちが学校で生の芸術に触れる機会についてですが、例えば音楽だと学校に行ってやりやすいと思うんですけど、演劇は、普通の学校の体育館などでできるものですか。

●団体

そういうことを頑張っている劇団が幾つもあります。

○市長

そうなんですか。

●団体

以前、私が昔住んでいたまちでは、各学校にそういう予算があって、1年に1回は全校生徒が演劇に触れる機会をつくっている地域もありました。今はなかなか学校がそういう予算が確保できないので、PTAが捻出して、何年かに1回とか、あるいは演劇と音楽を交代で中学生に大きなホールで見るような機会をつくっている市などもあります。

○市長

芸術鑑賞会という名目で学校でやっているはずなので、ちょっと声をかけてみたいと思います。

●団体

かつては、学校で演劇を観られたという時代があったそうです。そういった劇団、オペラシアターこんにゃく座だとか、青年劇場だとか、体育館を会場にしてなお芝居をする劇団がありましたが、土曜日がお休みになってからは、その時間がとれなくなっています。

○市長

そうですね。もし他の自治体でこんな形でやっているよというのがあれば、教育委員会に話ししやすいので教えてください。

●団体

船橋市でも青年劇場のお芝居を全校生徒で文化ホールに来て鑑賞しているというところに出会いました。

○市長

そうなんですね。

ところで、演劇って、何歳ぐらいで観始めるのがいいですか。

●団体

親子劇場は小さい幼児期から大丈夫ですね。

小さなお子さんだと、人形劇とか、そういうところから始まっていきますよね。船橋も各地で子ども劇場などもありましたけども、やはりお子さんの減少とか、それから、どうしてもスポーツの方に行く傾向が多かったりするように感じます。

○市長

今、子どもたちって、一人のときはSNSの世界に行っちゃって、液晶を見て見たつもりになって、本物に触れる機会がなかなかなくなってしまっているというところがあると思います。

●団体

そうですね。

音楽も機械で幾らでも聞けますけども、ライブで聞くその感動は全然別物だし、芝居も劇場に行って、生の芝居を見るという感動は全然別物なので、手軽に市民が観られるような環境づくりが必要ではないか考えています。

●団体

西武の跡地について、希望する規模がいろいろあるという話があって、演劇の規模というのはあるんですけど、例えば西武の跡地にそういうホールがつくられるとして、その時にすごく立派なものできたけど、芝居やるには適当じ

やないのが出来てしまうのではないかと、利用料がすごく高くなるのではないかと不安です。

今の文化ホールは、改修・工事等をしていただいて、恵まれている状況にあるので、今あるものを大事にして、市の中できちっと文化の拠点として位置づけてもらえればなと思っていますので、よろしくをお願いします。

#### ○市長

ホール等の施設を新規につくるにはものすごく経費がかかります。今、市では行財政改革をやっていて、今まで船橋市の行政の歴史の中でやったことがないんですけど、全ての事業の棚卸しをして、船橋だけがやっている事業などを洗い出ししています。

船橋市は、75歳以上の人が白井市の人口よりも多いんですね。

10年前の民生費が500億円位だったのが、今年度940億円位なんです。市の税金は1,000億円位なので、予算規模としては、市税のほとんどが福祉関係予算と同じ位になっています。施設の使用料についても、今は非常にリーズナブルだと思うんですけど、ちょっと見直しをせざるを得ない状況があります。これは意見聴取をしまして、ウェブのアンケートとかもあるので、ぜひ意見を寄せてください。市民の人たちに共感してもらえないといい形にはできないので、遠慮なく意見を言ってもらえればと思います。

#### ●団体

ぜひ、最後に一言。やはりホールという建物は、単なる建物じゃなくて、もっと有機的なもので、地域にあって地域の人に支えられているホールなんですね。私たちも31年やってきたのには、支えてくださる皆さんがいて、地域の方とのつながりの中で演劇鑑賞会は今があるというふうに思っています。

#### ○市長

おっしゃる通り、基本的には、人の流れや、地域に根づいている部分もあるので、トータルで考えていく必要があると思っています。

●団体

今日は貴重な時間をいただいて、いろいろお話ができて、本当によかったと思います。今後も行政と市民が手を携えて、良いまちづくりをしていきたいと思ひますし、私たちが船橋の文化度を上げると言つては大げさですけれども、芝居を観る人口を増やしていかないと、鑑賞会もなくなつてしまひ、劇団もなくなつてしまひというところにつながるので、頑張つていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございました。

○市長

よろしくお願ひします。ありがとうございました。

— 了 —